

通告1番目、5番、梅田哲也議員、発言席から一問一答方式で質問願います。

梅田哲也議員。

○梅田議員 皆さん、おはようございます。

5番、梅田哲也でございます。議長の許可をいただきましたので、一問一答形式で一般質問をさせていただきます。

教育に関する2つのテーマ、小中学生の学力向上と通学区域の変更についてお聞きいたします。

まず1番目に、岩出市の重点課題である小中学生の学力向上についてお聞きをいたします。

文部科学省では、ご案内のように、平成19年度より、全国的に子供たちの学力状況を把握するため、全国学力・学習状況調査を実施しています。ことしは4月18日に実施され、その結果は8月1日に公表されています。今回は、小学校6年生では、国語、算数、中学3年生では、国語、数学に加え、英語も実施されています。つまり中学校3年生では、いわゆる受験主要3教科が実施されたということです。

和歌山県内の平均正答率は、小学校6年生国語では、全国平均と同じ64%、正答率、全国23位、最高は秋田県で74%、算数では、和歌山県では66%、全国19位、平均点マイナス1、最高は石川県で72%となっています。

中学校3年生国語では、和歌山県では70%、これは全国42位、平均点マイナス3、最高は秋田県で78%、数学では59%、これは全国で26位、平均点マイナス1、最高は福井県で66%となっています。英語では55%、全国21位、平均点マイナス1、最高は、またこれも福井県で59%となっています。

なお、今までは各教科で知識に関するA問題と、活用に関するB問題に区分されていましたが、本年度より知識と活用を一体的に問う形式に変更されています。

県教育委員会のコメントでは、2科目で全国最下位となった2016年度から本格的に対策に取り組み、教職員の意識改革が、昨年からの安定した結果につながり、小学校で築いた土台を中学校に引き継げるよう取り組んでいきたいというコメントでございます。

そこで、県全体の公表された結果を踏まえ、市としてもさまざまな角度から分析されていると拝察いたしますが、岩出市のテストの結果についてお聞きいたします。あわせて公表するとき、正答率も同時に公表したほうがよりわかりやすく関心を持っていただけるのではないかと思います。教育委員会のご見解をお聞きいたします。

2点目に、岩出市では、これまで学力向上施策に取り組まれてきています。早くから子供の学力や学習状況を把握するための小学校3年生、4年生、5年生、中学1年生、2年生の学力テストの実施、教員のスキルアップを図るための教職員の先進地派遣、国語力アップのための岩出図書館の各学校への司書派遣事業等々、さまざまな施策に取り組んでおられます。また、9月より普通教室へのエアコンの設置がなされました。勉強がしやすくなったとの声を私もたくさん聞いてございます。

その中で、中学校における土曜学習教室についてお聞きいたします。平成30年度の主要施策の成果説明書によりますと、抜本的な見直しが必要とありますが、無料で9月からの土曜日に20回受講でき、中学生と年齢も近い和歌山大学や近畿大学の学生に講師を依頼していたと聞いていますが、今後とも内容を工夫して続けていくべきと思いますが、今までの受講生の人数と、今後どのように改善を図っていくのかについてお聞かせください。

3点目に、教員の先進地学校派遣事業についてお聞きします。今までどのような観点から学校を選択し、派遣したのか。また、その研究実践の成果と、今後継続発展させていくのかについて、お聞かせください。

4点目に、昨年の結果にも出ているように、中学校に課題があるということですので、生徒の学力を底上げしていくためには、特に基礎力が不足している生徒のレベルアップが必要であると思います。現在、複数教員によるティームティーチングに取り組まれ、成果も出ているとお聞きしていますが、数学、英語で生徒の希望も取り入れたスタイルで、例えば、基礎からコース、発展コースといった習熟度別クラス編制に取り組んではどうかと考えますが、教育委員会の考えをお聞かせください。

○田畑議長 ただいまの1番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育長。

○塩崎教育長 おはようございます。

梅田議員の小中学生の学力向上についてのご質問にお答えいたします。

1点目の今年度の全国学力状況調査の結果であります。市全体の結果としましては、小学校6年生の国語では、正答率で全国平均63.8%に対して65%と1.2ポイント上回っており、算数も全国平均66.6%に対して67%と0.4ポイント上回っております。この学年は、小学校3年生の岩出市学力テストから、国語、算数ともに全国平均を上回り、6年生までその結果を維持しており、学力の定着が図られてきております。

次に、中学校3年生につきましては、国語は全国平均72.8%に対して66%と6.8ポイントのマイナスで、前年度比較しましても全国平均との差は広がっており、課題も小さくありません。数学は全国平均59.8%に対して54%と5.8ポイントのマイナスとなっておりますが、全国平均との差は改善されております。英語につきましては、全国平均56.0%に対して50%と6ポイントのマイナスとなっております、特に聞き取り問題に課題が見られます。

なお、テスト結果の公表につきましては、正答率も含めた公表について教育委員会で前向きに検討してまいります。

中学校3年生においては、生活習慣に関するアンケート調査で、昨年度と比較して改善が図られている項目が多く見られ、小学校でも4年前から生活改善が図られ、学力向上につながっていることから、教員による授業方法工夫改善とともに、中学生の生活習慣改善にも引き続き取り組んでまいります。

2点目、土曜学習教室への参加生徒数の推移であります。平成27年度は40回開催し、延べ566名参加、1回当たりの平均参加人数は14.2人、平成28年度は40回開催し、延べ927名参加、1回当たりの平均参加人数は23.2人、平成29年度は40回開催し、延べ639名参加、1回当たりの平均参加人数は16.0人、平成30年度は39回開催し、延べ840名参加、1回当たりの平均参加人数は21.5人となっております、年度により参加者数にばらつきが見られます。

しかし、参加した生徒の感想では、苦手だった数学の計算や国語の文章題ができるようになった。初めは行くのが面倒だったが、最近、楽しくなった。わからないところを丁寧に教えてもらえるのでとても勉強になった。説明もわかりやすく、できなかった問題もできるようになってうれしかったなど、好評でありますので、今後も引き続き事業を実施してまいります。

参加人数については、学校内において、この事業についてよりPRしていくとともに、教職員の働き方改革に対する見直しについては、休日出勤による鍵の管理など、教職員に負担をかけていることなどが課題となっておりますので、公民館での開催や教室管理人の設置などにより継続実施してまいります。

次に、3点目についてであります。本事業は平成28年度から実施しておりますが、実施当初の2年間は市教育委員会が指定した学校や研究発表会に教員を派遣しておりました。岩出市とよく似た環境や児童生徒数で、生徒指導や学力上の課題を克服した学校を選定し、指導主事も同行して研修に参加しております。平成30年度からは各校独自の課題克服のため、各校で視察校を選択しております。実践の成果

といたしましては、学校全体で同じ取り組みを徹底して行うこと、学校の取り組みを児童生徒や家庭に周知徹底するなど、学校全体の組織力向上に効果が出てきております。今後もさらなる課題改善に向け、教育委員会と学校で視察校を協議しながら、本事業の充実に取り組んでまいります。

次に、4点目であります。現在、両中学校において、1年生の数学で少人数指導に取り組んでおりますが、少人数指導を行うには、空き教室と加配教員が必要となります。現在、両中学校とも空き教室は1教室ですので、1学年のみ少人数指導を行っております。議員ご指摘の習熟度別クラス編制ですが、生徒の発達段階を考慮しますと、小学校以上に保護者や生徒の理解を得るのが困難であると推測されますので、現段階においては、先進地派遣事業とあわせて、効果的な指導方法を工夫していく考えでございます。

以上でございます。

○田畑議長 再質問を許します。

梅田議員。

○梅田議員 2点お聞きしたいと思います。

まず1点目、学力・学習状況調査では児童生徒の生活習慣に関するアンケートも実施されていますが、昨年の結果を見ますと、特に中学校3年生で気になる点が幾つかあります。家で計画を立てて勉強していますかとの質問に、岩出市では40.8%の人が勉強していますと回答しています。これは全国は52.1%ですので、マイナスの11.3%、家で学校の授業の予習・復習をしていますかとの質問に、岩出市では37.5%の子供さんが予習・復習していますと回答しています。これは全国平均が55.2%、マイナス17.7%となっています。

生活習慣に関する質問では、家で何をして過ごすことが多いですかとの質問に、テレビ、DVD、ゲーム、インターネットと答えた割合は、岩出市では82.2%と回答しています。これは全国では77.3%、プラス4.9%となっています。

また、地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますかとの質問に対しては、やったことありますよというのが35.3%回答しております。これは全国では平均51.8%、マイナス16.5%となっています。

そのほか社会や地域に関する関心も、特に中学校では低くなっています。家庭学習のくせづけはなかなか難しい課題でもあると思いますが、実践されていると思いますが、宿題で調整するとか対策が必要ではないかと考えます。具体的に指導している点についてお聞きします。

中学校では、取り組んでいるボランティア活動はあるのか。クラブ活動で手話クラブ等のボランティアに関するクラブはあるのかについてもお聞きいたします。

2点目に、来年からエアコンの設置によって夏休みを短縮するということが検討されているとお聞きしておりますが、この期間については1週間程度を考えておられるのか、その期間をどのように活用するのかについて、お聞きをいたします。

○田畑議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育部長。

○湯川教育部長 梅田議員の再質問にお答えいたします。

1点目、家庭で計画的に勉強するための指導ということでございますが、両中学校ともに各教科ごとに、その日の学習の復習を中心に宿題を与えてございます。本年度の家で計画を立てて勉強していますかとの質問に対して、岩出市では49.2ポイントと、昨年より8.4ポイント向上しております。全国市と比較しましても1.2ポイントの差となっており、改善がなされているということでございます。

2点目の中学校で取り組んでいるボランティアについてでございますが、ボランティア活動については、両中学校ともボランティアに関するクラブはございません。授業等の中でボランティアの重要性、必要性は指導しており、現在、両中学校では生徒会執行部が主体となってボランティア活動に取り組んでおります。

具体的には、クリーン缶トリー運動 in 岩出への参加、商業施設での募金活動やエコキャップ運動、そのほかには福島県にひまわりの種を届けるひまわりの種プロジェクトにも取り組んでございます。

3点目の夏休みを短縮した期間をどう活用するのかというご質問ですが、現在検討中でございますが、いずれにしましても短縮した期間は2学期の前倒しと考えてございます。学習指導要領に示されている標準時間数を十分確保して学力向上に努めてまいります。

○田畑議長 再々質問を許します。

(なし)

○田畑議長 これで、梅田哲也議員の1番目の質問を終わります。

引き続きまして、2番目の質問をお願いいたします。

梅田議員。

○梅田議員 2点目に、小学校の通学区域の変更についてお聞きいたします。

岩出市の生徒児童数は、全体的には減少傾向となってきていますが、市内各地に大小の住宅開発が進み、小学校の児童数は、少ない学校は岩出小学校の365人、多

いところは山崎小学校の697人と倍の開きがあります。理想的には偏りなく同じくらいの規模で教育を受けるのが好ましいと思います。

そこでお尋ねをいたします。

1 番目に、昨年、岩出市学校通学区域検討委員会へ提言を依頼されていますが、その主な内容と提言を依頼した理由についてお聞かせください。

また、実施時期については通学路の整備が完了され次第とのことでありますが、実施時期はいつごろを想定されているのか、時期を教えてください。また、提言によりますと、現在、山崎小学校へ通われている主に波分地区の子供さんを山崎北小学校へ通学区域の変更というふうになっておるようですが、現状では何人くらいの子供さんが増減すると考えておられるのか、お聞きいたします。

3 点目に、変更に伴う混乱はないのかについてもお聞かせください。

○田畑議長 ただいまの2番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育部長。

○湯川教育部長 梅田議員の小学校の通学区域の変更についてのご質問にお答えいたします。

1 点目、通学区域検討委員会からの提言の主な内容と委任した理由についてありますが、まず、提言の主な内容について、今回、検討の対象となりましたのは、山崎小学校区において、比較的大規模な住宅開発の影響が考えられることから、教室数や通学路の安全確保を前提として慎重に検討していただいた結果、山崎小学校の通学区域のうち市道山西国分線、通称農免道路でございますが、北側の区域を山崎北小学校の通学区域に変更することとして、実施時期については、現在、本道路の歩道設置事業が進められていることから、通学路としての安全が確保された段階で決定することとしてございます。

次に、委任した理由についてですが、まず、この通学区域検討協議会の設置に至った経緯ですが、岩出市では、昭和50年代後半から大規模開発に伴い人口増加が進み、小学生等の増加に伴い、学校の新設や通学区域の見直しを行ってまいりました。

ここ数年はある程度落ちついてきた感がありますが、地域によっては、今なお大規模な住宅宅地開発が行われており、児童数の平準化や適正化を図り、学力向上につなげていく必要があることから、平成30年3月、岩出市立学校通学区域検討協議会条例を定め、同年5月23日に第1回協議会を開催してございます。

協議会の委員の選任に当たって注意したことは、通学路の変更については、例えば、行かせたい学校があり、それを見越して土地を購入している方が違う学校にな

るという場合や自治会との関係など、さまざまな利害関係が発生する場合もあります。利害関係がなく、地域の事情や交通事情に詳しく、中立の立場で幅広く意見をいただける方々を委員として、条例第3条の規定に基づき、委員16名で構成してございます。

2点目の実施時期のめどについてであります。通学区域の変更に関する歩道設置工事が令和3年度中の完成をめどに進められていることから、周知期間も含めて令和4年度と考えてございますが、歩道設置事業の進捗状況等を確認しながら、通学区域検討協議会においても、改めて検討していただくことになると考えてございます。なお、本年9月1日現在の変更区域内の児童生徒数は47名でございます。

3点目の変更に伴う混乱についてでございますが、通学路の変更に際しては、通学路の安全が確保されることを前提としておりますが、歩道設置事業が完了した段階において、直ちに変更することは考えておらず、当然のことながら、混乱を来さないよう一定の周知期間が必要と考えてございます。また、通学ということから考えますと、児童や保護者にとりまして、年度途中ということよりも年度当初からの実施が適切であると考えておりますので、一定の周知期間を経た後に年度当初の実施と考えてございます。

○田畑議長 再質問を許します。

梅田哲也議員。

○梅田議員 1点だけお願いしたいと思えます。

今回の提言は山崎小学校の児童数の急増が主な要因と推察されますが、全体の校区の再編成の提言を求めのお考えはないのかについて、お答えください。

また、現在の各学校別、空き教室の数はどのようになっているのか、お答えください。

○田畑議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育部長。

○湯川教育部長 梅田議員の再質問にお答えいたします。

校区全体の再編成の考えということでございますが、通学区域については、基本的には変更しないほうがよいと考えております。しかしながら、今回のように、今後の大規模開発等により、児童生徒数への影響が想定される場合は、教室数や学校間のバランスなどの適正化を図るため、通学区域を変更せざるを得ない場合がありますが、実施に当たっては混乱を来さないよう、できるだけ小規模に抑えるべきであると考えております。

また、少子高齢化の進展に伴い、児童生徒数も減少することが想定されている中、岩出市内全体を対象とした校区の見直しについては、現時点においては考えてございません。

それから、各学校別の空き教室でございますが、根来小学校と山崎小学校がそれぞれ1教室、山崎北小学校と中央小学校がそれぞれ2教室、上岩出小学校は7教室となっております。岩出小学校は空き教室はございません。

○田畑議長 再々質問を許します。

梅田哲也議員。

○梅田議員 1点だけお願いしたいと思います。

今ある空き教室をおっしゃっていただいたんですが、根来小学校と山崎小学校がそれぞれ1教室、山北と中央が2教室と、上岩出小学校7教室ということになっておるんですが、岩出小学校なしということですが、上岩出小学校7教室というのは、どういうふうにご利用されているのか、お答えください。

○田畑議長 ただいまの再々質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育総務課長。

○南教育総務課長 梅田議員の再々質問にお答えいたします。

上岩出小学校7教室、現在のところ、各学年に1学級ずつの多目的教室という形で、少人数指導等を行うために使用しております。

今後、さらに空き教室が出てきた場合には、先ほどの答弁にもございましたが、少人数指導等を充実するための教室として使用していく方向でございます。

○田畑議長 これで、梅田哲也議員の2番目の質問を終わります。

以上で、梅田哲也議員の一般質問を終わります。